

授業科目名	【G】 日本法制史Ⅱ 【H】 日本法制史Ⅱ 【I】 日本法制史Ⅱ	区 分 選 択	開講年次	【G】3 【H】3 【I】3	単位数	【G】2 【H】2 【I】2		
科目区分	専門科目：【G・H・I】教科及び教科の指導法に関する科目（中社・地歴・・・・）							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独	【G】 教員の免許状取得のための（中社選択・地歴必修・・・・）科目 【H】 教員の免許状取得のための（中社選択・地歴必修・・・・）科目 【I】 教員の免許状取得のための（中社選択・地歴必修・・・・）科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項：「日本史・外国史」（中一種免社会） 「日本史」（高一種免地歴）							
サブタイトル	基礎から学ぶ近世・近代日本の法制度			担当者	池田 卓也			
授業概要	【概要】	本授業は、近世・近代（一部、現代を含む）日本の歴史について、法制度を中心にみていく授業です。授業では、各時代の概要について踏まえたうえで、現代の私たちの社会・生活とのつながりも意識しながら、関連するテーマ・用語や史料を取りあげて解説します。なお、履修者の学修状況その他の理由により、授業計画等を変更する場合があります。あらかじめご承知置きください。						
	【到達目標】	1. 近世・近代（一部、現代を含む）日本の法制度に関する基礎的な知識を修得し、その概要を説明できる。 2. 近世・近代（一部、現代を含む）日本の法制度に関する基本用語を理解し、的確に使用できる。 3. 近世・近代日本の法制度への理解を深めることで、現行の法制度を相対的に捉えられるようになる。 4. 過去という「異文化」体験を通じて、異なる意見や価値観に対する寛容さを身につけ、他者を尊重・理解できる。						
履修条件	特にありません。							
アクティブラーニングの方法	【○】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【○】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎（よく当てはまる）						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－（当てはまらない）						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	－（当てはまらない）						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	○（やや当てはまる）						
他科目との関	必須ではありませんが、「歴史学概論」・「日本史概論」・「日本法制史Ⅰ」を履修していることが望ましく、また本科目と同時に「特殊講義（日本政治外交史）」（Hカリキュラムでは「専門講義（日本政治外交史）」）を履修すると、さらに理解が深まります。							
教科書	特に指定しません。必要に応じて資料を配付します（Google Classroomを利用）。							
参考書	・岩谷十郎・松園潤一郎・高田久実[編著]『よくわかる日本法制史』（ミネルヴァ書房、2025年）ISBN 978-4-623-09619-0 ・出口雄一・神野 潔・十川陽一・山本英貴[編著]『概説 日本法制史』[第2版]（弘文堂、2023年）ISBN 978-4-335-35954-5 ・高谷知佳・小石川裕介[編著]『日本法史から何がみえるか：法と秩序の歴史を学ぶ』（有斐閣、2018年）ISBN 978-4-641-12597-1 ・佐藤 信・五味文彦・高埜利彦・鈴木 淳ほか『高校日本史』〈文部科学省検定済教科書；日探706〉（山川出版社、2023年）ISBN 978-4-634-70122-9 その他、必要に応じて紹介します。							
評価方法	「授業実時数の3分の2以上の出席者」を評価対象として、以下の方法で評価します。 ・授業内試験 50% ※履修者数次第では定期試験に変更して実施します。 ・平常点（課題等を含む）50% ※responを適宜利用します。							
フィードバック方法	講義内容については適宜質問を受け付け、課題については授業時に講評を行って、学修内容の深化を促します。							
評価基準	積極的な授業への参加・節度ある授業態度を基本に、以下の評価基準で評価します。 S: 授業内容を十分に理解し、きわめて優秀な成績をおさめている A: 授業内容を概ね理解し、優秀な成績をおさめている B: 授業内容を部分的に理解している C: 授業内容を最低限理解している D: 授業内容をほとんど理解していない E: 授業内容を理解していない F: 「授業実時数の3分の2未満の出席者」である、未提出の課題が多い、授業内試験を欠席する、などの理由により評価不能である							

授業 科目名	【G】	日本法制史Ⅱ	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【H】	日本法制史Ⅱ			【H】3		【H】2
	【I】	日本法制史Ⅱ	選 択		【I】3		【I】2
授業回数	授業内容						
1	イントロダクション／「法制史」とは？ 予習： 日本近世・近代史の法制度に関わる既習内容を列挙する。(2時間) 復習： 「法制史」の位置づけや研究手法、時代区分について整理する。(2時間)						
2	日本近世史概観 予習： 日本近世史の大まかな流れについて既習内容を確認する。(2時間) 復習： 「近世社会の特質」を核として授業内容を整理する。(2時間)						
3	織豊政権期の法制度 予習： 織田信長・豊臣秀吉の事績について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 中世との違いを意識して当時の法制度を整理する。(2時間)						
4	幕藩体制の統治構造 予習： 江戸幕府の成立と「幕藩体制」について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 武家・公家・寺社の統制や幕府の機構について整理する。(2時間)						
5	「パックス＝トクガワ」期の対外関係 予習： 江戸時代の対外関係の推移について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 「海禁」・「日本型華夷秩序」・「四つの口」について整理する。(2時間)						
6	「パックス＝トクガワ」期の身分と「家」・「村」・「町」 予習： 江戸時代の身分や「村」・「町」について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 当時の身分集団と共同体との関わりについて整理する。(2時間)						
7	「パックス＝トクガワ」期の法と裁判 予習： 「公事方御定書」など、江戸時代の法令について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 当時の法・裁判の位置づけや刑罰を含む概要について整理する。(2時間)						
8	日本近代史概観 予習： 日本近代史の大まかな流れについて既習内容を確認する。(2時間) 復習： 「近代社会の特質」を核として授業内容を整理する。(2時間)						
9	近代国家の建設 予習： 明治憲法体制の成立に至る近代国家の建設について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 中央集権体制の形成や西洋法の継受・法典論争について整理する。(2時間)						
10	条約改正交渉 予習： 不平等条約の締結から条約改正の達成に至る過程について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 不平等条約の実態や条約改正を達成できた要因について整理する。(2時間)						
11	大日本帝国憲法① 予習： 大日本帝国憲法の制定過程について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 大日本帝国憲法制定の背景や私擬憲法との関わりについて整理する。(2時間)						
12	大日本帝国憲法② 予習： 大日本帝国憲法の内容について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 大日本帝国憲法の内容について、日本国憲法などと比較して整理する。(2時間)						
13	明治憲法体制下の諸制度 予習： 明治憲法体制について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 司法・軍事など明治憲法体制下の諸制度について整理する。(2時間)						
14	日本国憲法の制定 予習： 日本国憲法の制定について既習内容を確認する。(2時間) 復習： 日本国憲法の制定過程・概要について整理する。(2時間)						
15	授業内試験／まとめ ※履修者数次第では、別途、定期試験を実施します。 予習： 第1回～第14回の授業内容について総復習する。(2時間) 復習： 授業内試験を通じて理解が不十分だとわかった内容について改めて確認する。(2時間)						
その他	歴史を知ることは「現在を知ること」でもあります。現代の私たちの社会・生活・価値観との共通点や違いを意識しながら、節度をもって受講し、日本近世・近代の法制度について、さらには私たち自身について理解を深めてください。そして、ご自身の未来に向けてのヒントを見つけてください。						